コンピュータミシン

ご使用のしおり

《取扱説明書》

JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in Japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

警告　感電・火災の恐れがあります。

必ず実行

一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。

必ずプラグを抜く

以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止

お客様自身での分解はしないでください。

接触禁止

ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

禁　止

ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。

禁　止

曲がったり、先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。

禁　止

フットコントローラーの上に物をのせないでください。

禁　止

プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください。

注　意

お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。

必ず実行

ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。

必ず実行

針および押さえは、確実に固定してください。
また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
針が押さえにあたり、けがの原因になります。

必ず実行

以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
・押さえ、アタッチメントを交換するとき
・上糸、下糸をセットするとき

必ず実行

電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。

必ずプラグを抜く

以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。
・針、針板を交換するとき
・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。）
・ミシンのお手入れを行うとき

必ずプラグを抜く

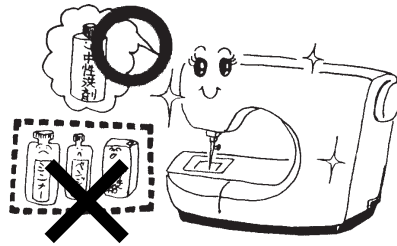
ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
・正常に作動しないとき
・水に濡れたとき
・落下などにより破損したとき
・異常な臭い・音がするとき
・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目　次

おとり扱いについてのお願い

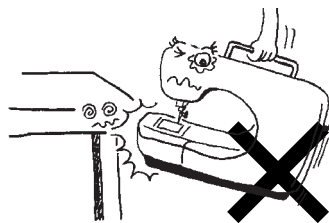
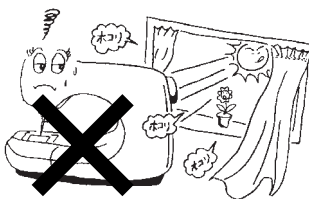
◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇いつまでもご愛用いただくために

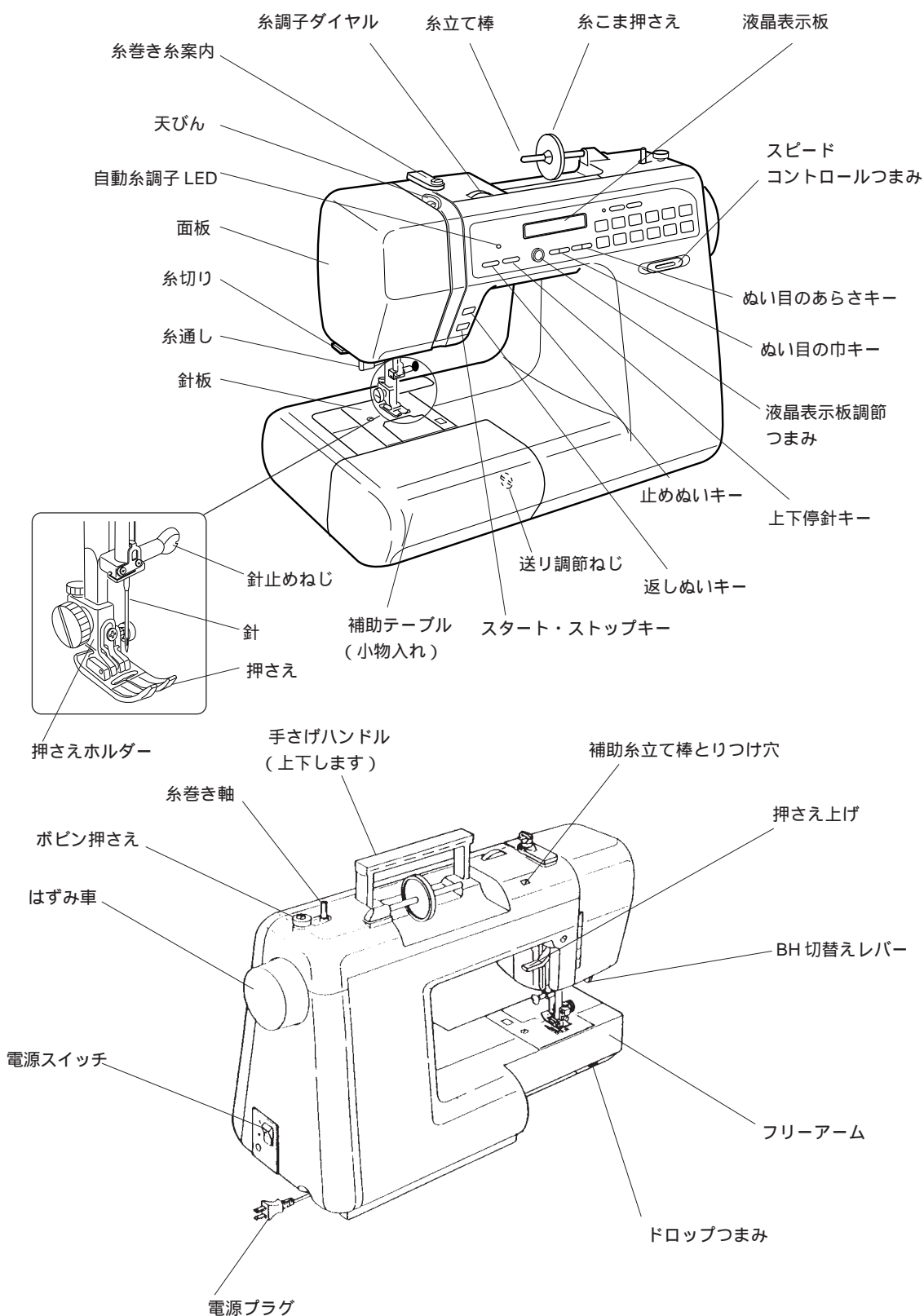
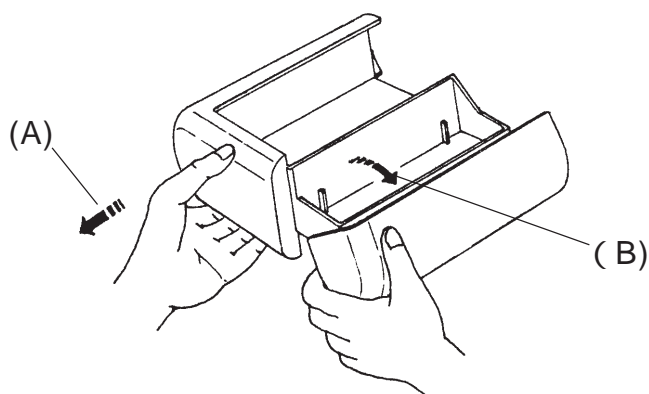
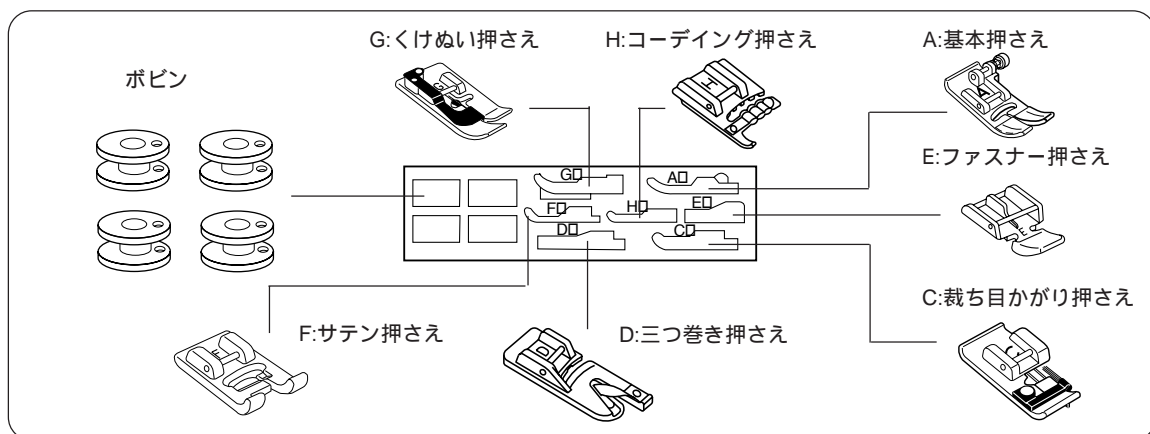
① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（39 ページ）により点検・調整を行ってください。

●各部のなまえ

糸調子ダイヤル
糸立て棒
糸こま押さえ
液晶表示板
糸巻き糸案内
天びん
スピード
コントロールつまみ
自動糸調子 LED
面板
糸切り
糸通し
針板
ぬい目のあらさキー
ぬい目の巾キー
液晶表示板調節
つまみ
止めぬいキー
上下停針キー
送り調節ねじ
返しぬいキー
針止めねじ
針
押さえ
補助テーブル
（小物入れ）
スタート・ストップキー
押さえホルダー
手さげハンドル
（上下します）
補助糸立て棒とりつけ穴
糸巻き軸
押さえ上げ
ボビン押さえ
はずみ車
BH 切替えレバー
電源スイッチ
フリーアーム
ドロップつまみ
電源プラグ

●補助テーブルと標準付属品

(補助テーブルを外すとき)
矢印方向（A）に引いて外します。

※手前（B）にひらいて、付属品を収納してください。

ねじまわし

キルター

R:オートマチック
ボタンホール押さえ

針と針ケース

ミシンブラシ

補助糸立て棒

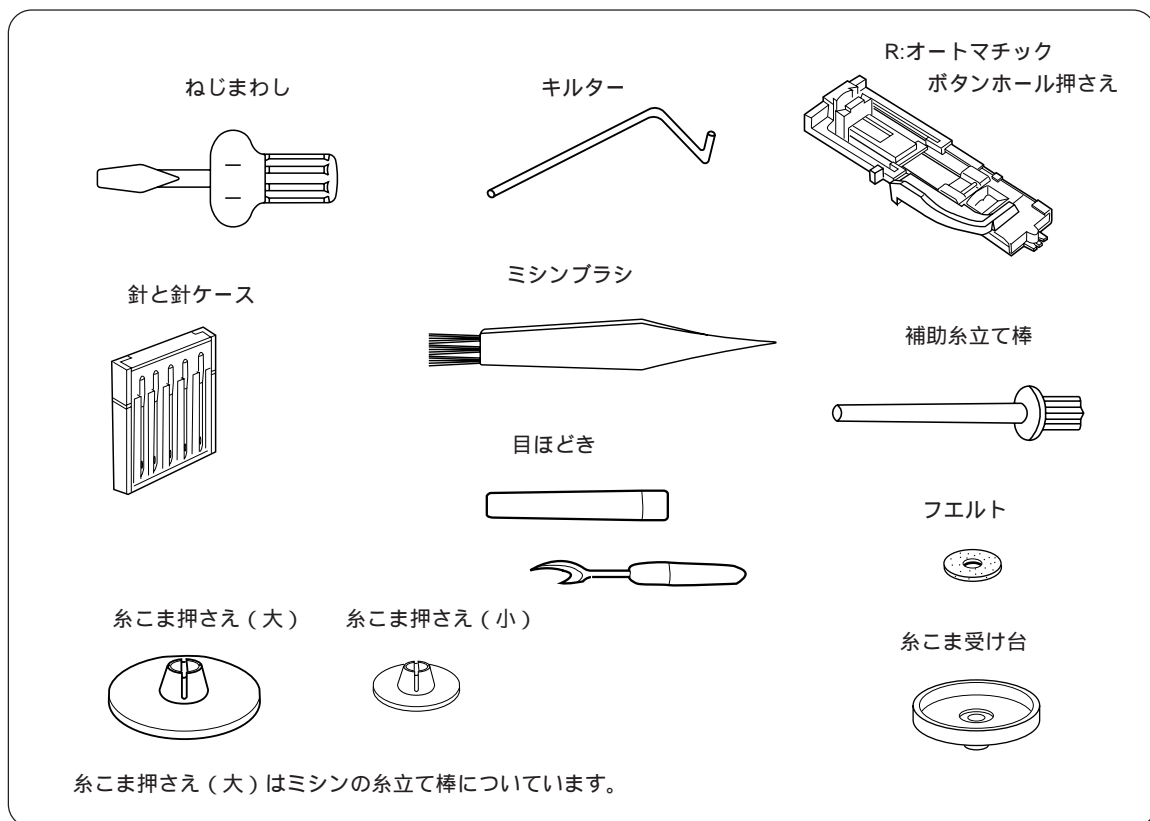
目ほどき

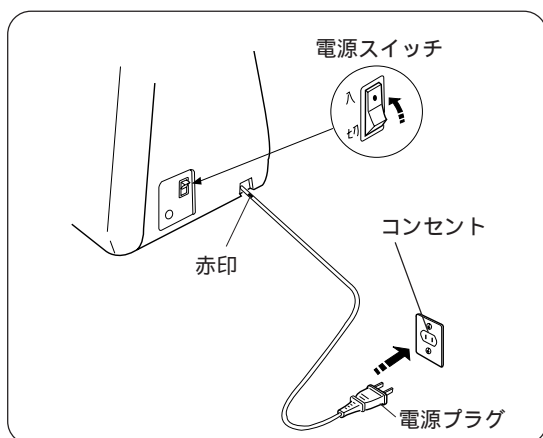
フエルト

糸こま押さえ（大）

糸こま押さえ（小）

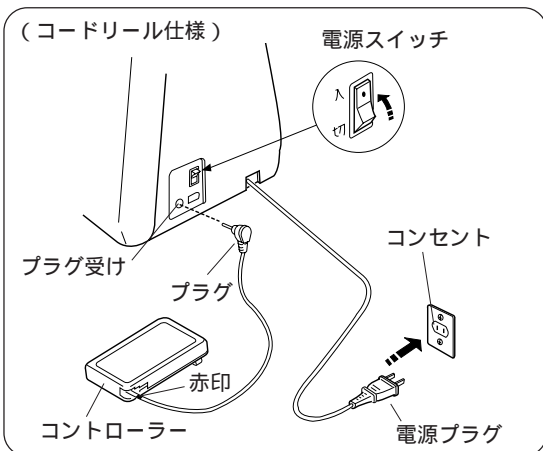
糸こま受け台

※糸こま押さえ（大）はミシンの糸立て棒についています。

●電源のつなぎ方

★スタート・ストップキーを使用する場合

①電源スイッチを「切」にして、プラグをコンセントにさしこみます。

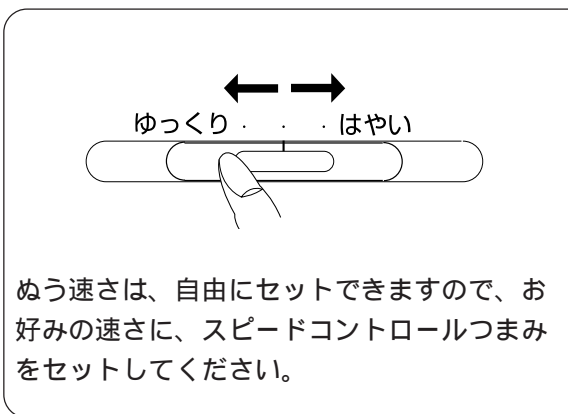
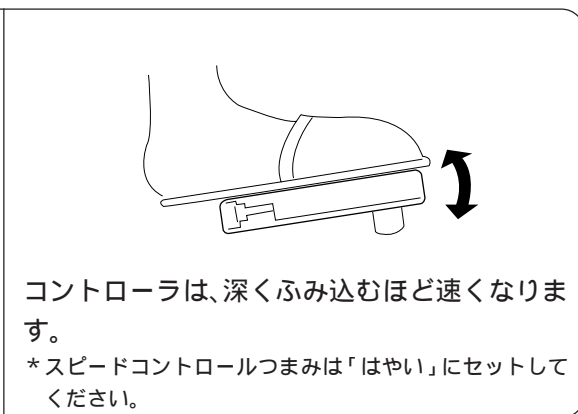
②スイッチを「入」にします。

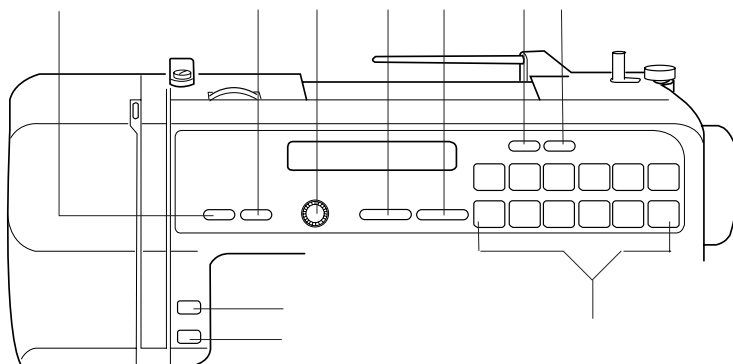
※コードは赤印以上は引き出さないでください。
※電源は一般家庭用（100V　50/60Hz）です。
※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

★コントローラーを使用する場合

（コントローラーはモデルにより別売になります。）

①電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
②電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。
③スイッチを「入」にします。

＊コントローラーを使用する場合はスタート・ストップキーは作動しません。

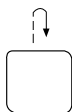
●速さの調節のし方（ミシンのスピードは、コントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。）

ぬう速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。

コントローラは､深くふみ込むほど速くなります。
＊スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

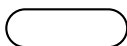
●キーの主なはたらき

①スタート・ストップキー

動/止

キーを押すと、ゆっくり動きだしスピードコントロールつまみでセットした速さで動きはじめます。

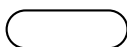
※押えをあげたままキーを押すと「オサエヲ　サゲテクダサイ」と表示され警告音が鳴りますので、押えをさげてキーを押してください。

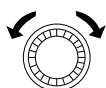
②返しぬいキー

模様＃１（直線）、＃６、＃７、＃８、（ジグザグ）＃９（トリコット）は、キーを押している間は返しぬいをします。
その他の模様のときには、止めぬいをして自動的に止まります。

③止めぬいキー

止めぬい

模様＃１（直線）、＃６、＃７、＃８、（ジグザグ）＃９（トリコット）で、キーを押すと数針止めぬいをして自動的に止まります。
その他の模様ぬいのとき、キーを押すと、模様の完了するところで止めぬいをして（サイクルトメ→トメヌイと画面表示されます。）自動的に止まります。

④上下停針キー

上下停針

ミシンが止まっているとき、キーを押すと針が上位置から下位置に切りかわります。もう一度押すと、上位置にきりかわります。

⑤液晶表示板調節つまみ

つまみをまわすと液晶表示板のあかるさがかわります。

⑥ぬい目の巾キー

ぬい目の巾

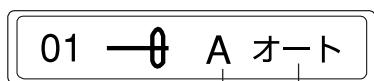
ー ＋

ぬい目の巾を変えるときに「ー」キーまたは「＋」キーを押します。
※画面表示は巾（W)及びあらさ（L）が表示されます。

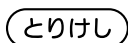
⑦ぬい目のあらさキー

ぬい目のあらさを変えるときに「ー」キーまたは「＋」キーを押します。
※画面表示は巾（W)及びあらさ（L）が表示されます。

⑧模様選択キー・・・キーを押して模様を選びます。

電源投入時、及び模様＃１を選んだときの表示

模様を選んだ時の表示
（例.模様＃ 14）

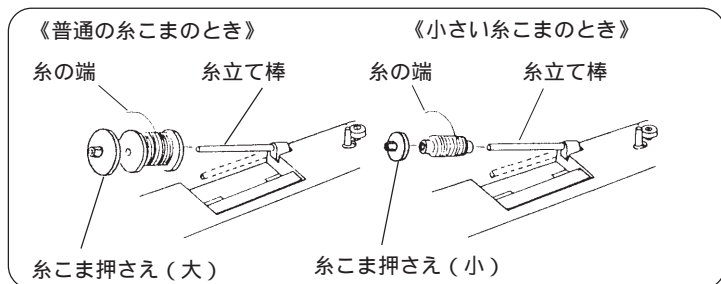
⑨記憶キー

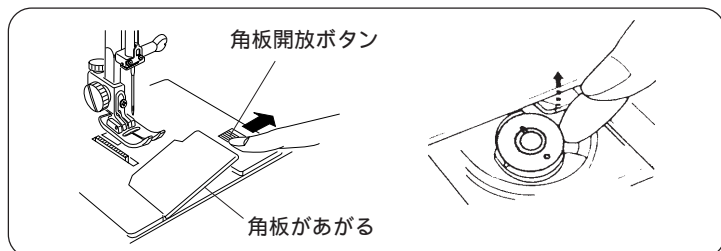
模様を選んでから記憶キーを押すと、キーを押した数だけその模様を記憶します。さらに、他の模様を選んでから記憶キーを押すと、前の模様に続けて次に選んだ模様を記憶します。
（模様は、終わりの止めぬいを含めて50個まで記憶します。）
※記憶できない模様は、＃２、＃３およびBH1〜BH３です。

⑩とりけしキー

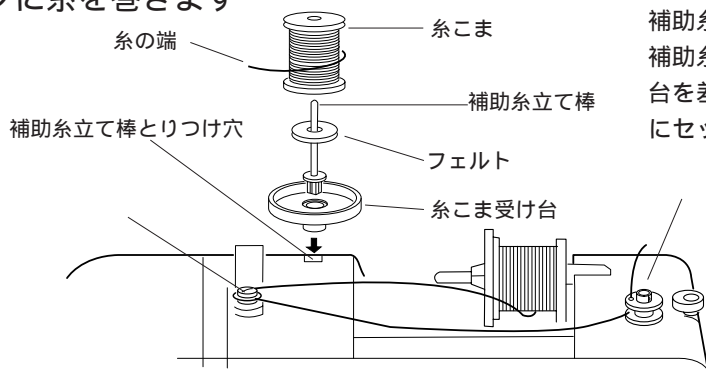
とりけし

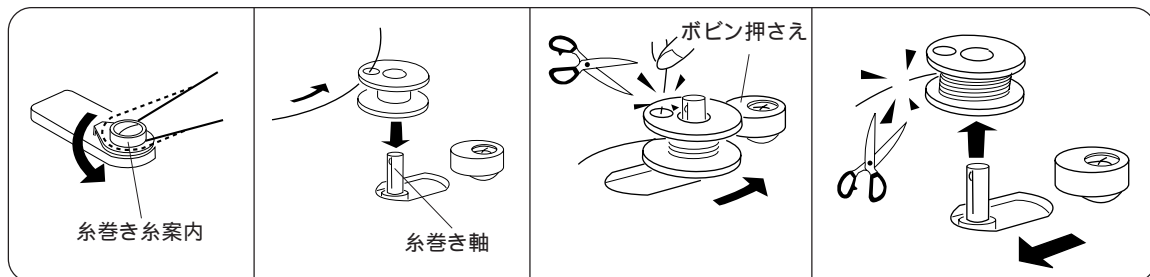
模様を記憶させているとき、まちがえて選んだ模様を記憶させた場合、とりけしキーを押すと、その模様だけがとりけされます。
記憶させて、ぬいはじめてからとりけしキーを押すと、記憶させた模様すべてがけされます。

●下糸の準備をしましょう

★糸こまをセットします

糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側に出るようにして、糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまをおさえます。

★ボビンをとり出します

角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンをとり出します。

★ボビンに糸を巻きます

※補助糸立て棒の利用もできます。
※補助糸立て棒は、下側に糸こま受け台を差し込んだ状態で、取り付け穴にセットします。

※糸の端は、上図のごとく右回りに出るようにします。また、補助糸立て棒を利用のときは手前側から出るようにします。
※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「中速～高速」の間でご使用ください。

糸巻き軸
②

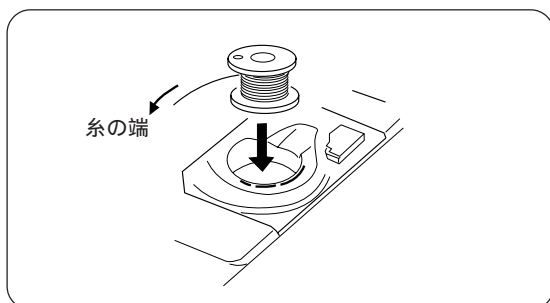
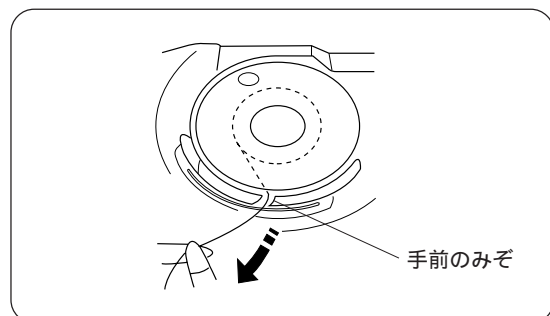
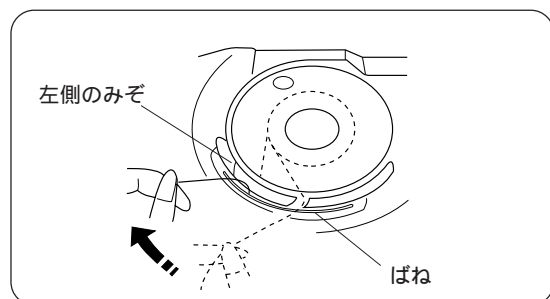
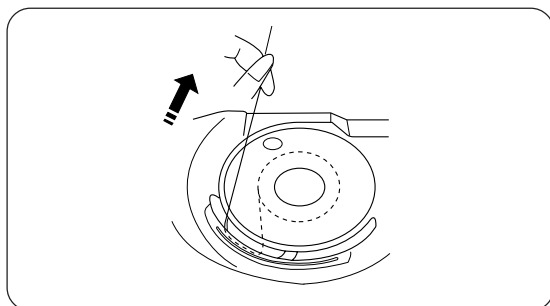
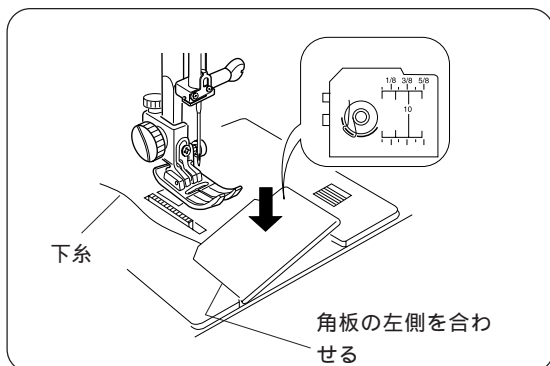
①糸巻き糸案内に糸を掛けます。

②ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。

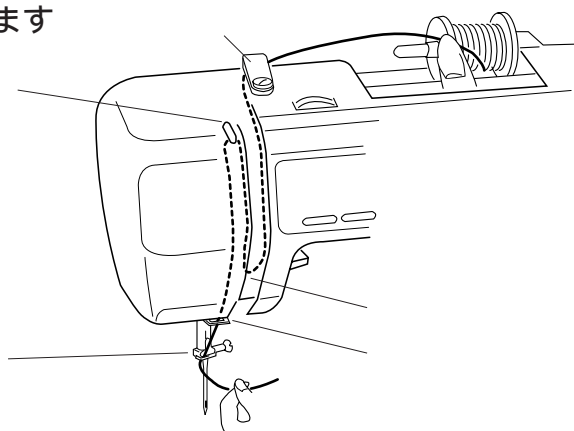
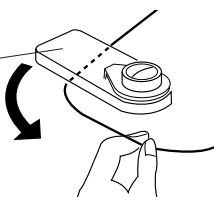
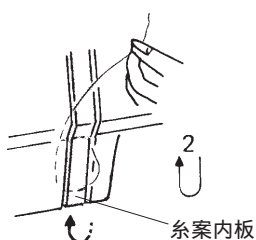
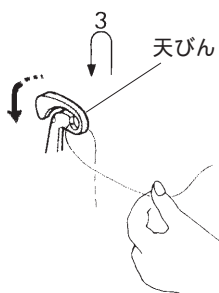
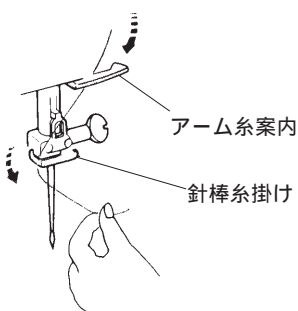
③ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。糸の端をつまんだまま、スタートして、ボビンに糸が三重くらい巻きついたら、止めて糸を切ります。

④ふたたびスタートして、巻きおわるとボビンの回転が止まります。

⑤ミシンを止めて、糸巻き軸よりボビンを外し糸を切ります。

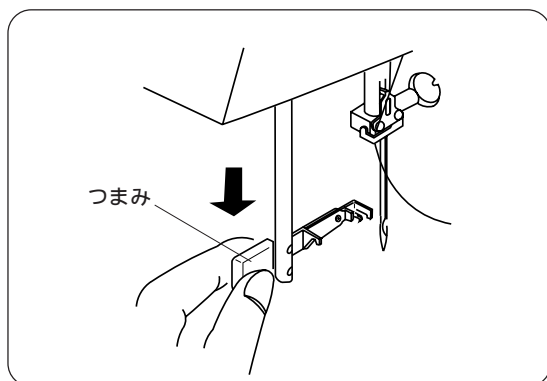
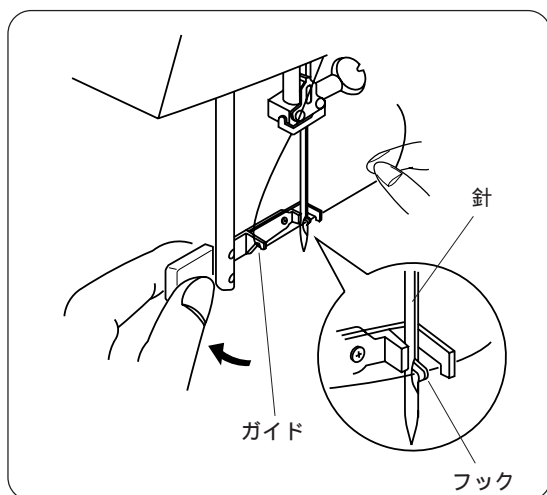
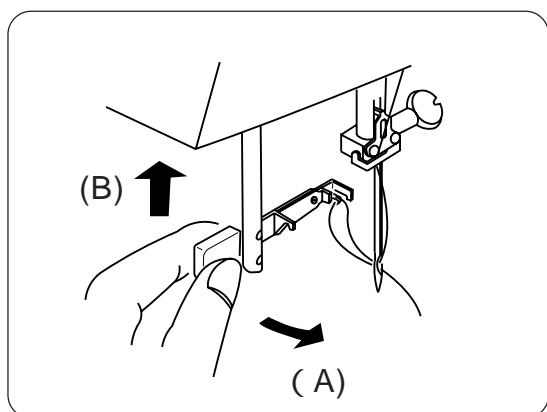
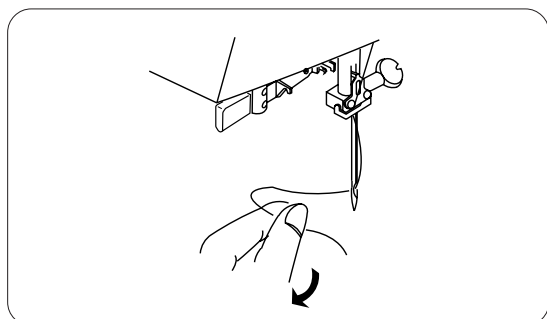
★ボビンをかまにセットします

①糸の端を矢印方向に出し、ボビンをかまに入れます。

②糸の端を引きながら、手前のみぞに掛けます。

③糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通して、左側のみぞのところに出します。

④糸を左側のみぞに掛けるように向こう側に出します。

⑤下糸は１０ cm くらい引き出して、角板を左側から合わせてつけます。

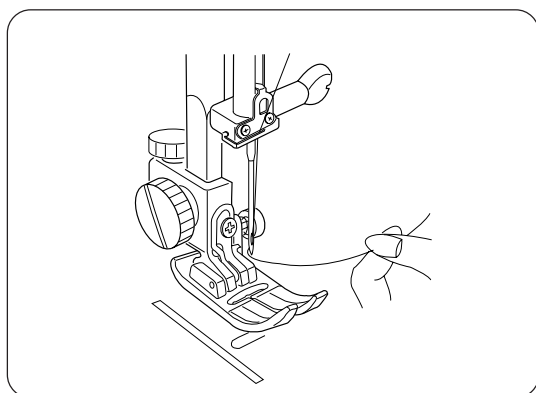
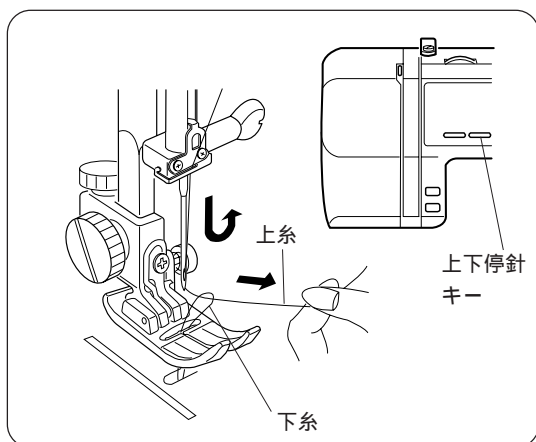
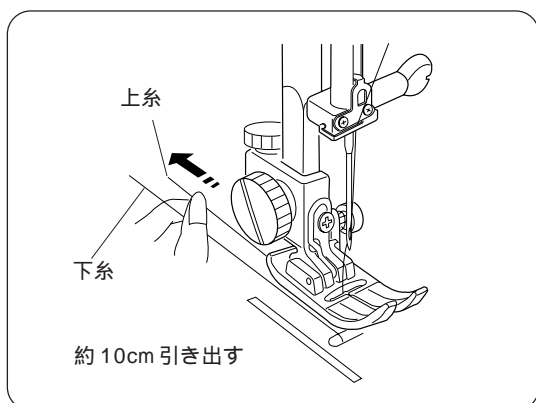
●上糸の準備をしましょう

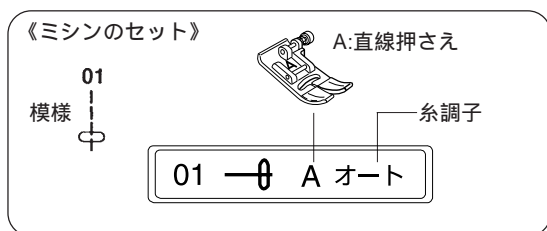
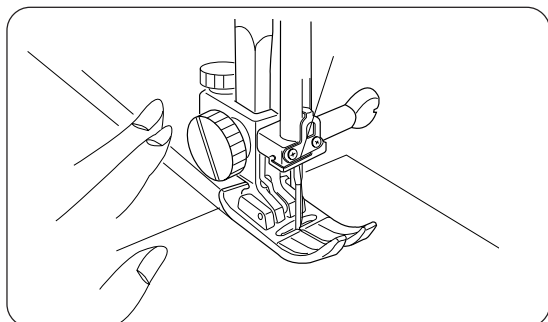
★上糸を掛けます

①押さえ上げをあげ、糸こまから糸を引き出し、糸こまを軽く押えながら糸巻き糸案内の下に巻きつけるようにして掛け、糸案内板に沿っておろします。
（糸こまの切欠きは左側にセット、糸の端は右回りに出るようセット）

②糸案内板の下をまわして、左上に引き上げます。

③天びんに、右から後ろへまわして左手前に出し、まっすぐ下に下ろします。

④アーム糸案内に右から掛けます。

⑤針棒糸掛けに左から掛けます。

※針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、11ページをごらんください。

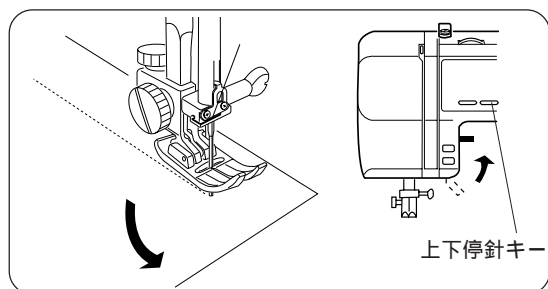
★糸通しの使い方

①針を一番上にあげてつまみを止まるまでいっぱいにさげます。

②つまみを矢印方向へまわしてフックを針穴に入れます。糸をガイドとフックに掛けます。

③つまみを矢印方向（A)に引いて糸が輪になって出てきたら、つまみを矢印方向（B)に押しあげ糸の輪を引きあげます。

④糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

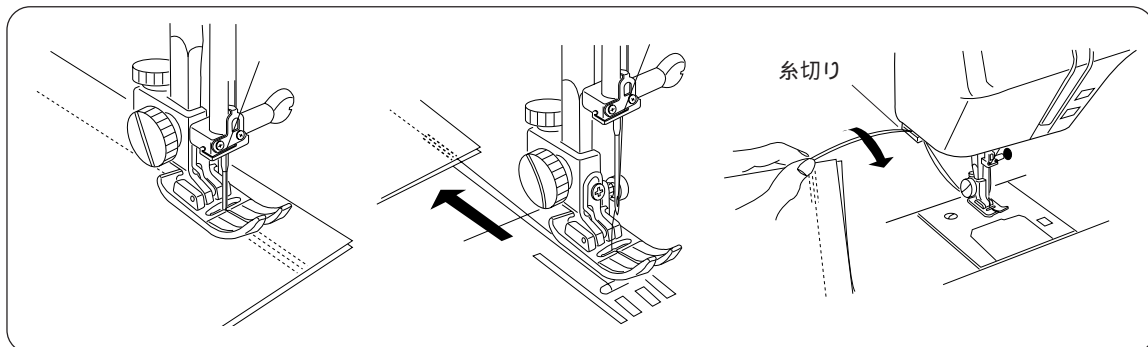
★下糸を引き上げます

①押さえ上げを上げ、上糸を持ちます。

②上下停針キーを２度押し、針を上げます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③上糸・下糸を押さえの下にして後ろへそろえて
出します。

●直線ぬい

★ぬいはじめ

糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。

押さえ上げをさげて、ゆっくりぬいはじめます。

＊ぬいはじめのほつれ止めは､返しぬいキーを押しながら返しぬいをする方法と､自動返しぬいのついた模様＃3を使う方法とがあります。

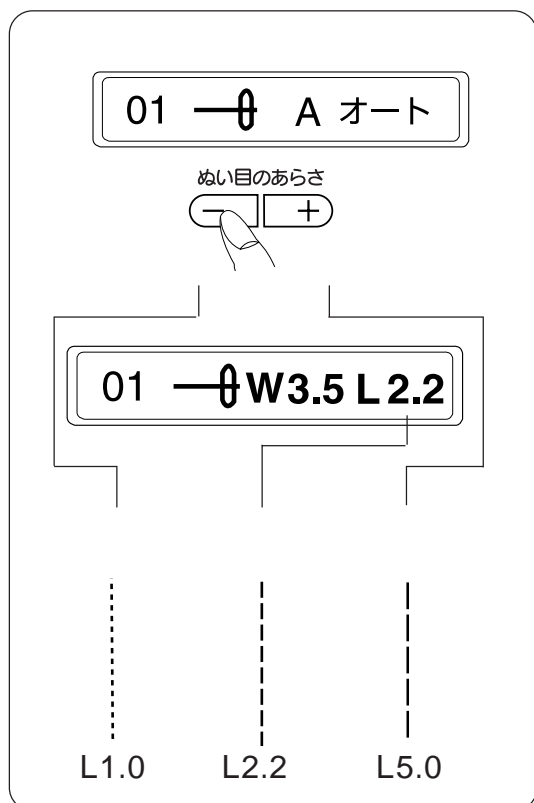
★ぬい方向をかえるには

ミシンを止め、上下停針キーを押して針を布に刺し、押さえ上げをあげます。
針を布に刺したまま、ぬい方向を変えます。

★ぬい終わりの返しぬい

①返しぬいキーを押しながら数針返しぬいをします。

※模様＃３のときには、返しぬいキーを１度押すだけで、自動的に返しぬいをします。

②押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

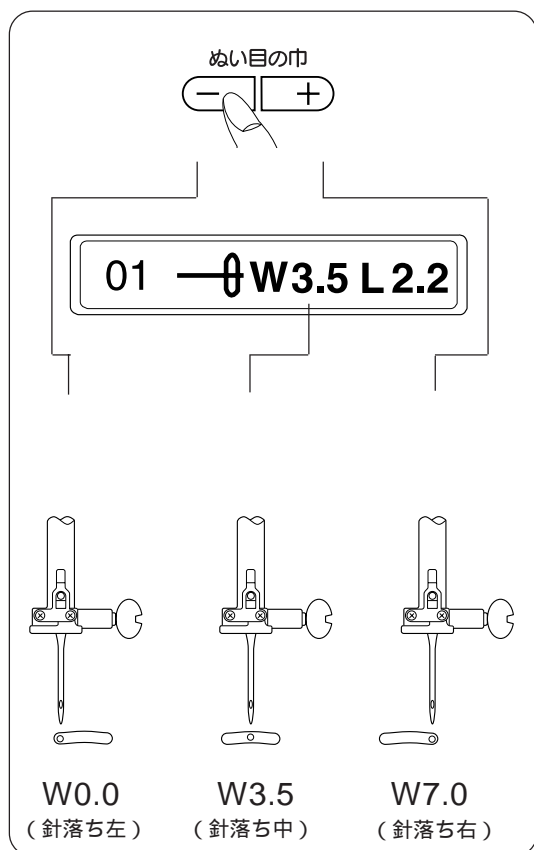
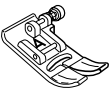
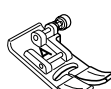
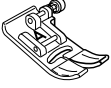
③布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

★ぬい目のあらさを変えるとき

□ ぬい目のあらさ − + キーを押すと、最初は自動セットの数値２．２が表示されます。
※ 0 〜 5.0 の範囲で変えることができます。

「−」キーを押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。

「＋」キーを押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらくなります。

※返しぬいのぬい目のあらさは、0.25cm 以上にはなりません。

★針落ちを変えるとき

□直線状のぬい目、模様 01 02 03 04 は、針落ち位置を変えることができます。

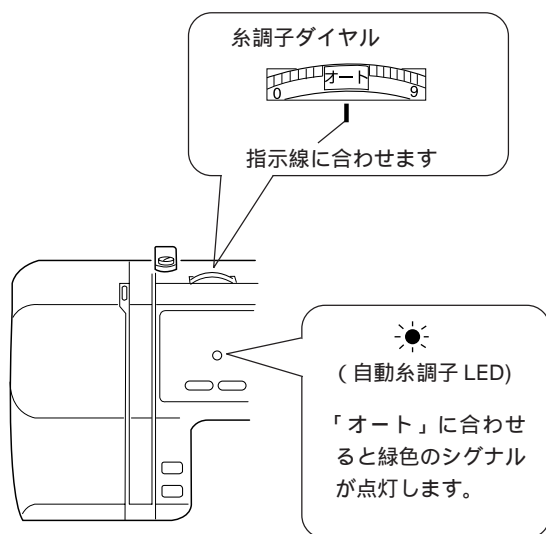
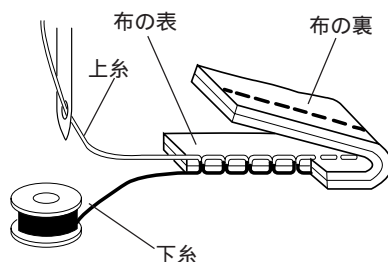
□ ぬい目の巾 − + キーを押して、針落ち位置を変えます。

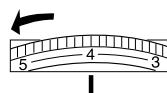
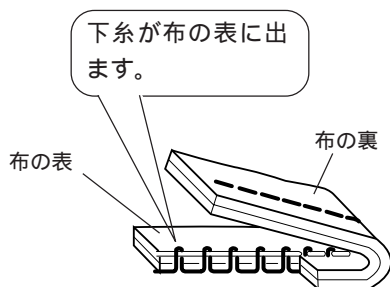
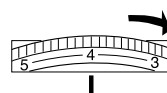
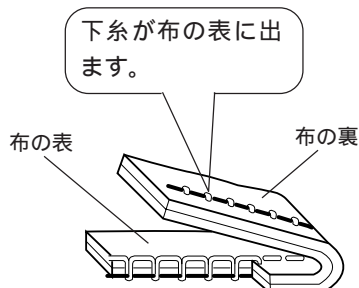
●直線状のぬい目いろいろ

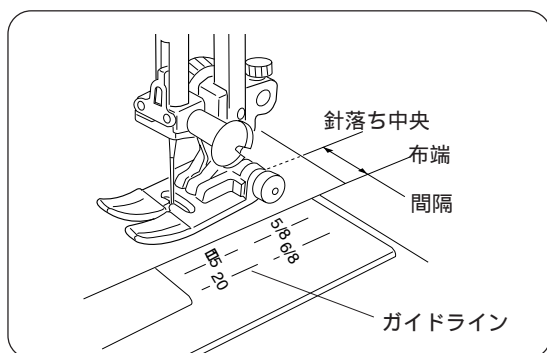
模　様	押さえ	使　い　方
01	A:基本押さえ	地ぬいや、ファスナーつけなどに使います。
02	A:基本押さえ	目立たない止めぬいを自動的に行うときに使います。 （ぬいおわりにきたら、返しぬいキーを１度押します。 　数針止めぬいをして自動的に止まります。）
03	A:基本押さえ	しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。 （ぬいおわりにきたら、返しぬいキーを１度押します。 　数針返しぬいをしてから自動的に止まります。）
04	A:基本押さえ	伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに便利です。
05	A:基本押さえ	布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。 また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

●糸調子の合わせ方

★自動糸調子

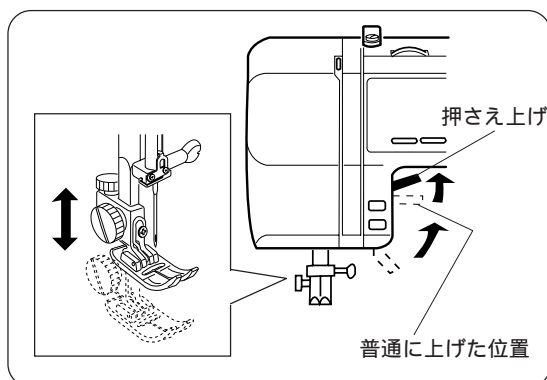
このミシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通のぬいのときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。

★マニュアル糸調子

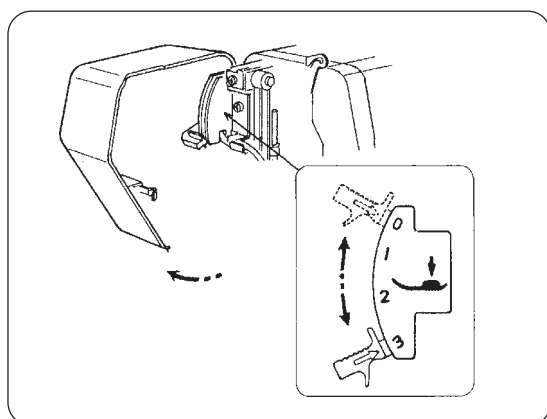
糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルを「0～9」に合わせると、マニュアル糸調子となり、上糸と下糸の交わる位置を自由に調節できます。

※マニュアルのときは自動糸調子 LED は消灯します。

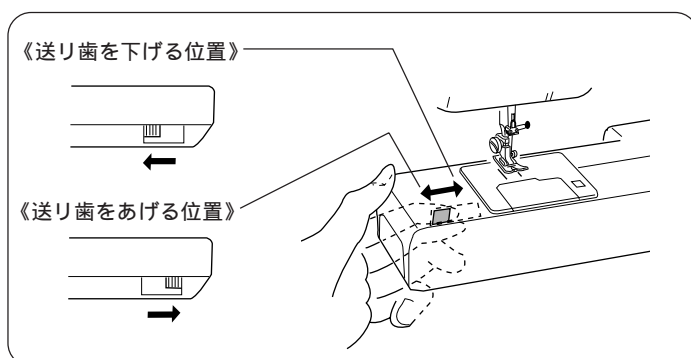
●針板ガイドラインの利用

□布端を針板ガイドラインに合わせてぬいます。

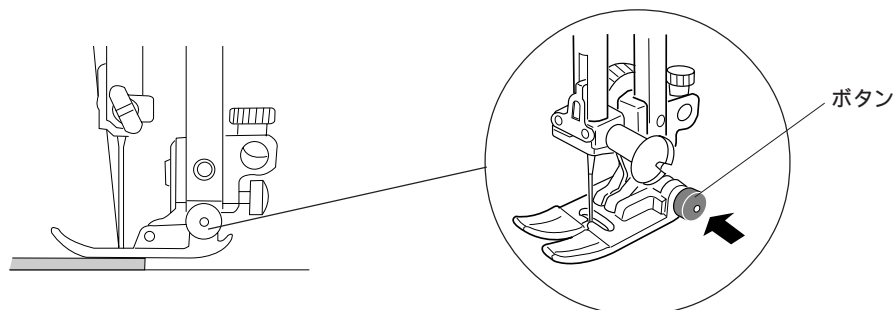
数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間隔（cm）	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

※数字は、針落ち中央から布端までの間隔です。

●厚い布を入れるとき

□押さえ上げを普通にあげた位置よりあげると、押えは更にあがります。

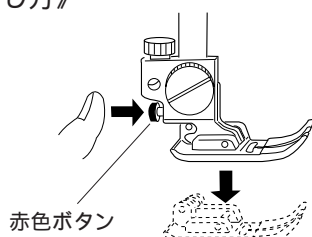
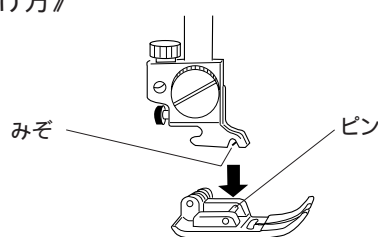
●押さえ圧調節レバーの使い方

□普通ぬいのときは・・・・・・・・・「3」
□薄手の化繊地や伸縮性のある布などでぬいずれがするとき、または、ぬいしろ部分が重なり合うときは・・・・・・・・・・「2」または「1」

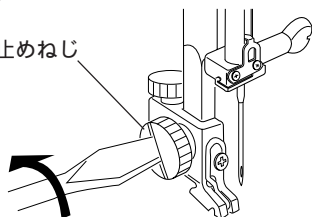
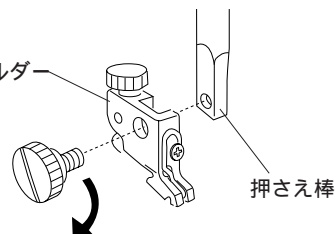
●ドロップつまみの使い方

□ボタン付けなどのときは、送り歯を下げる位置にセットします。
※終わったら、送り歯をあげる位置に戻しておきます。送り歯はミシンが回転すると自動的に上がります。

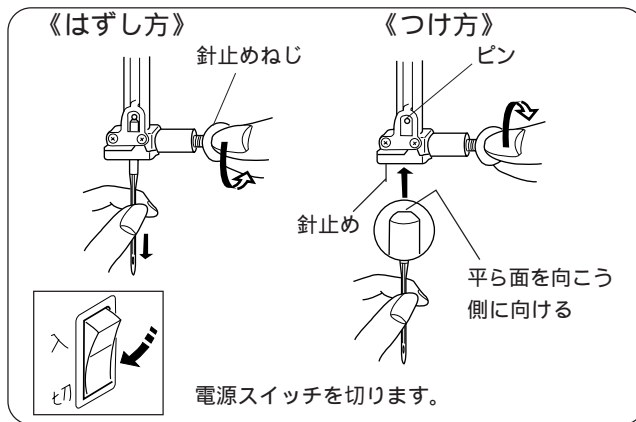
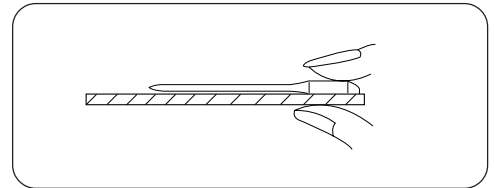
●厚手の布端のぬいはじめ

①ぬいはじめの位置に針をさし、基本押えの黒ボタンを押しこみます。

②ボタンを押したままで押さえをさげます。

③ボタンから手をはなし、ぬいはじめます。

●押さえの取りかえ方

□押さえ上げをあげて、赤色ボタンを押して、押さえをはずします。

□押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かに下ろします。

●押さえホルダーのはずし方、つけ方

□押さえホルダー止めねじを左に回して、はずします。

□押さえホルダー止めねじを右にまわして、つけます。

※押さえの取りかえ、及び押さえホルダーのはずし方、つけ方のときは、必ず電源スイッチを「切」にしてから行ってください。

●針の取りかえ方

※針をあげ、押さえ上げをさげます。
※電源スイッチを切ります。

【はずし方】

①針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。

【つけ方】

②針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまでさしこみ針止めねじをかたくしめます。

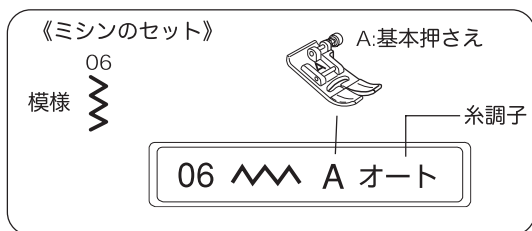
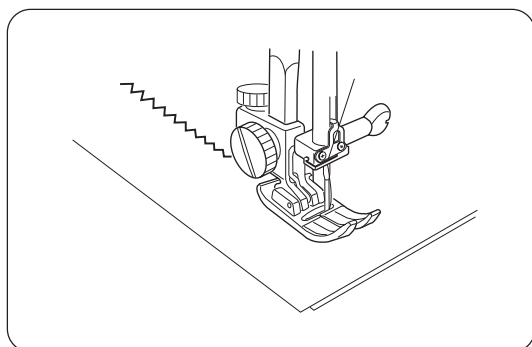
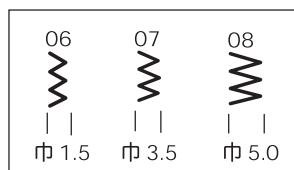
「針の調べ方」

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹　糸　８０番～１００番 綿　糸　８０番～１００番 化繊糸　８０番～１００番	９番～１１番
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール・化繊服地	絹　糸　５０番 綿　糸　６０番～８０番 化繊糸　５０番～８０番	１１番～１４番
		綿　糸　５０番	１４番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹　糸　５０番 綿　糸　４０番～５０番 化繊糸　４０番～５０番	１４番～１６番
		絹　糸　３０番 綿　糸　３０番	１６番

＊一般に、うすい布には細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬをして確かめてください。
＊原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。
＊伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針を使用すると効果があります。
（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

●ジグザグぬい

□模様は、ぬい目の巾が自動セットされている3種類のジグザグぬいがあります。

□伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

★ぬい目の巾・あらさを変えるとき

06 W1.5 L1.0 （自動セットの数値が表示される。）

《巾を変えるとき》

ぬい目の巾 − ＋ キーを押す

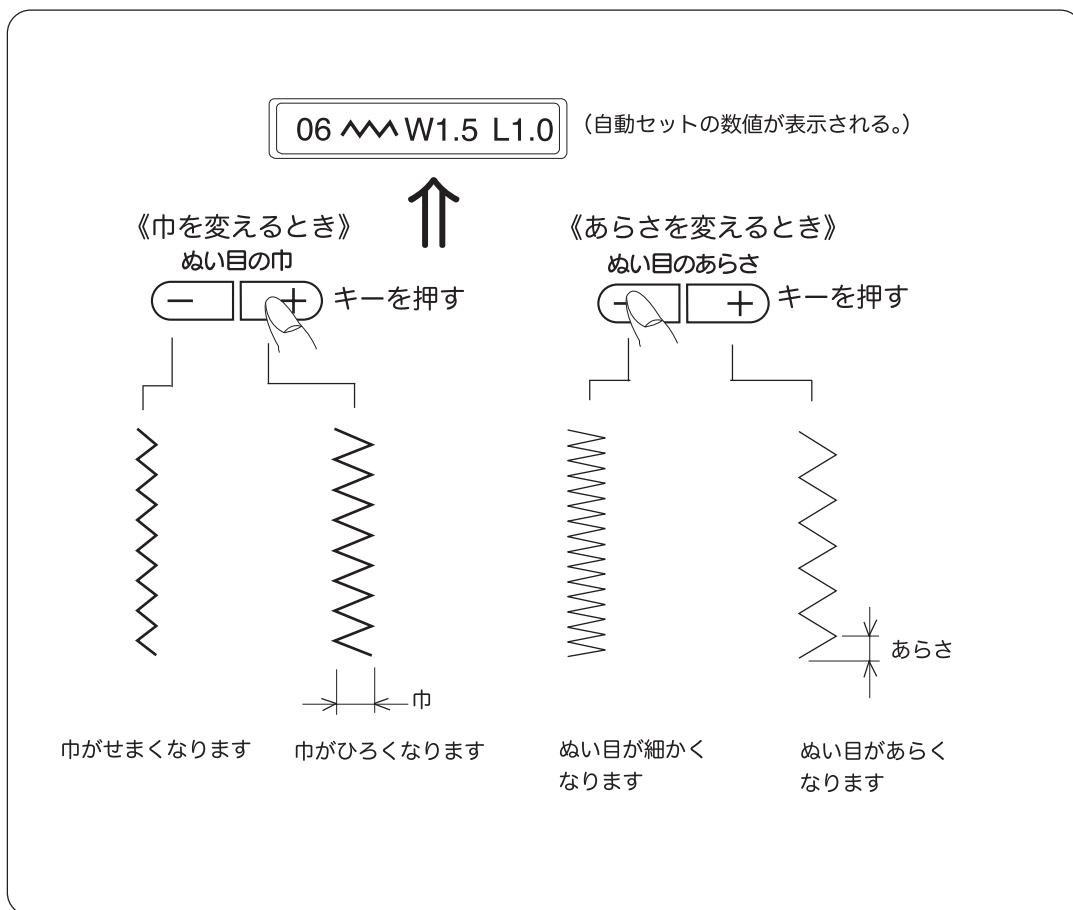
巾がせまくなります　巾がひろくなります

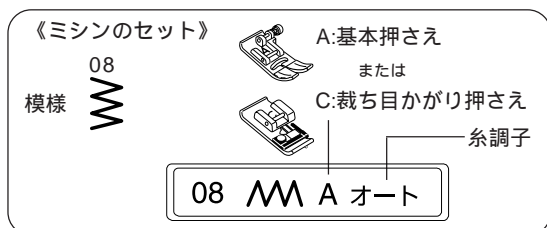
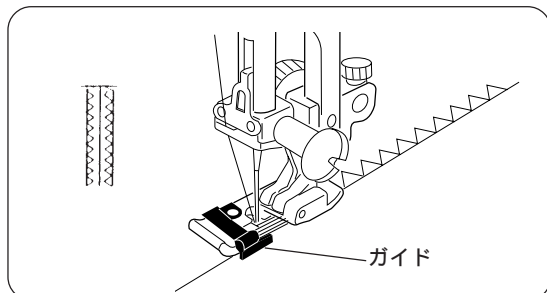
巾

《あらさを変えるとき》

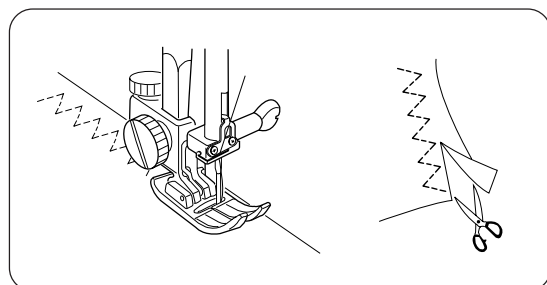
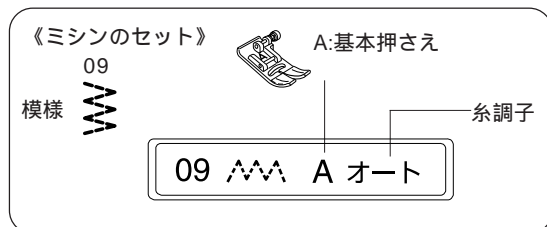
ぬい目のあらさ − ＋ キーを押す

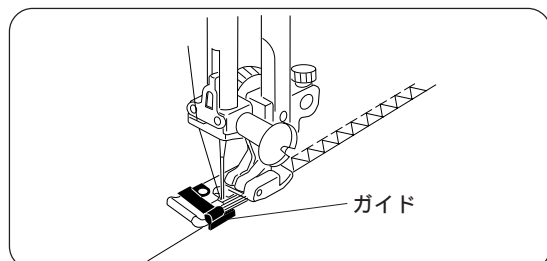
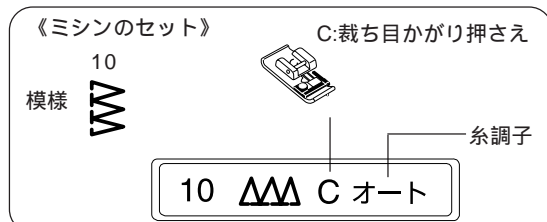
ぬい目が細かくなります　ぬい目があらくなります

あらさ

●裁ち目かがり

★ジグザグぬい裁ち目かがり

※C:裁ち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の巾は、5.0 ～ 7.0 でぬいます。

□布端を裁ち目かがり押えのガイドに当ててぬいます。

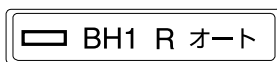
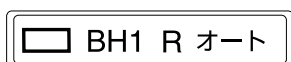
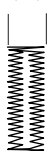
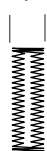
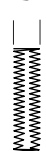
□布端のほつれ止めとして広く利用します。

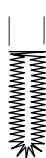
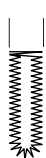
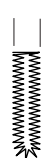
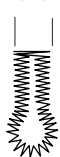
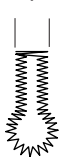
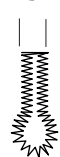
★トリコットぬい裁ち目かがり

ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

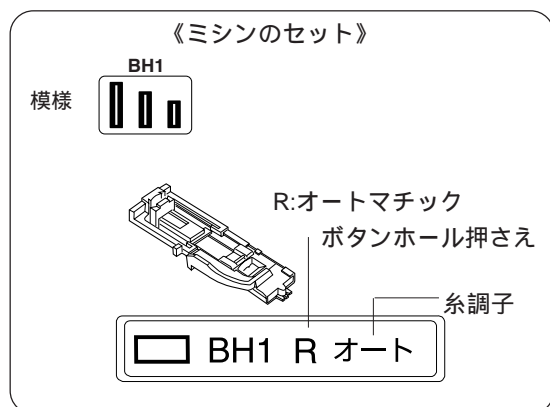
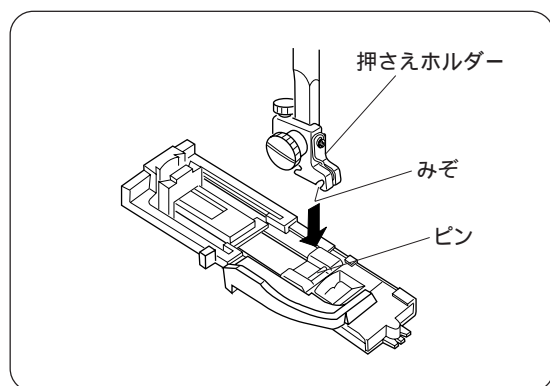
★かがりぬい

地ぬいをかねたかがりぬいで、また、裁ち目のほつれ止めとしても使えます。
布端をガイドにあててぬいます。
※ぬい目の巾は、5.0 ～ 7.0 でぬいます。

●オートボタンホール

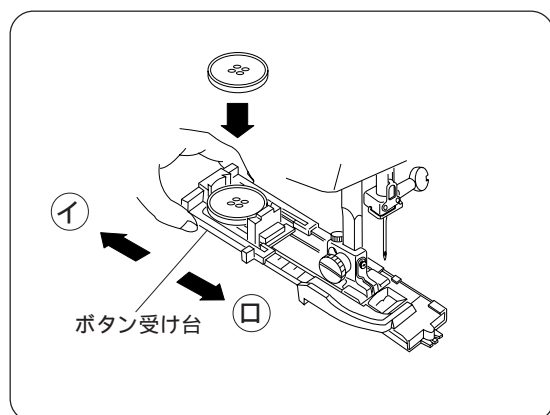
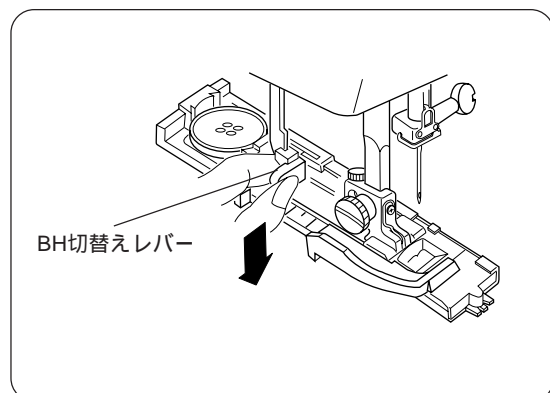
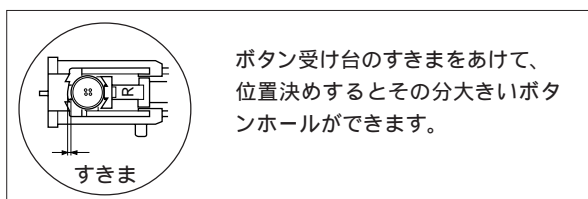
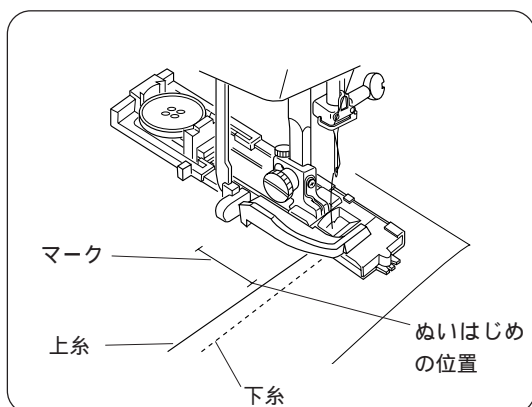
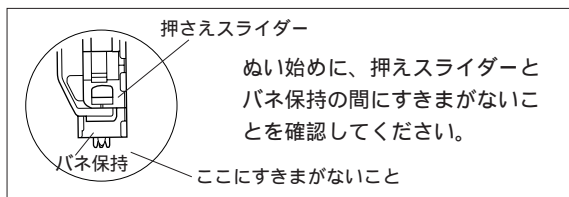
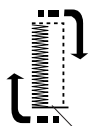
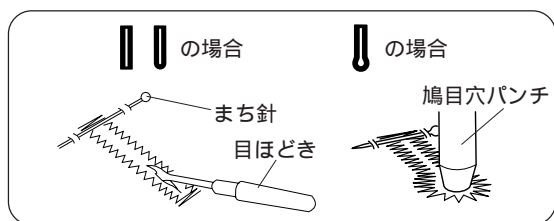
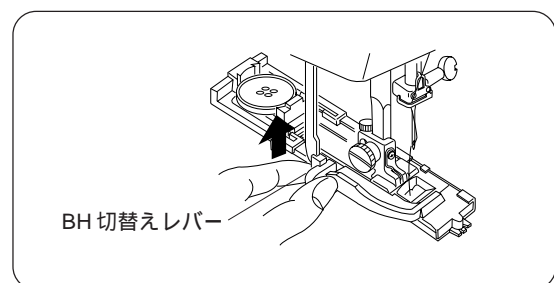
★ボタンホールの種類

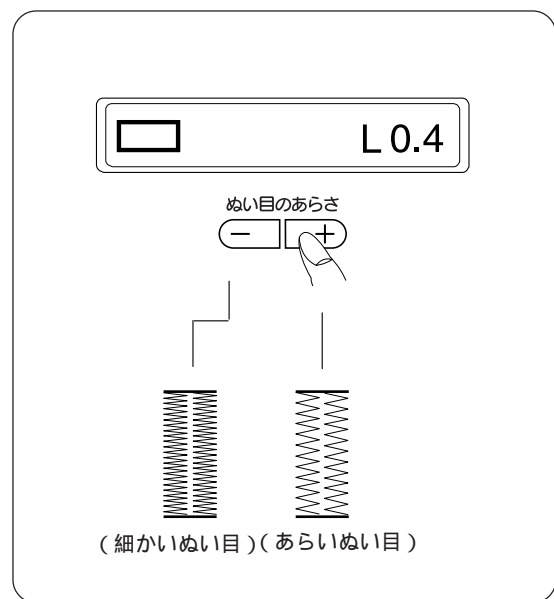
◎スクエア（両止め）・・・シャツ・ブラウスなどの穴かがりに使います。

□模様選択キーを押すと①、②、③の順番に巾の異なった 3 種類のボタンホールが選べます。

◎ラウンド（片止め）・・・シャツ・ブラウスなどの薄い素材の穴かがりに使います。

◎キーホール（鳩目穴）・・・シャツ・ジャケットなどの厚い素材の穴かがりに使います。

※模様の選び方は BH1 のときと同じです。

★ボタンホール（BH1)のぬい

◎ボタンホールの長さは、使用するボタンをＲオートマチックボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。
◎ボタンの直径が2.5cmまで、ボタンホールができます。
◎ぬうものと同じ布で試しぬいをして、セットを確かめましょう。
◎伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

①押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

②ボタン受け台をイ方向に引き、ボタンをのせてロ方向に戻しはさみます。

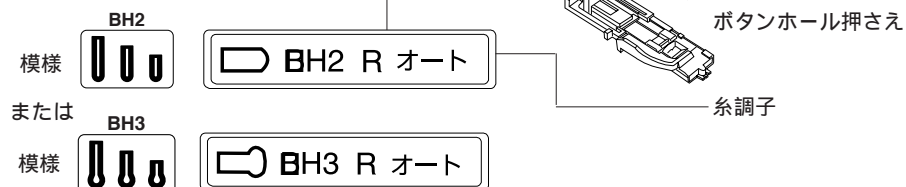
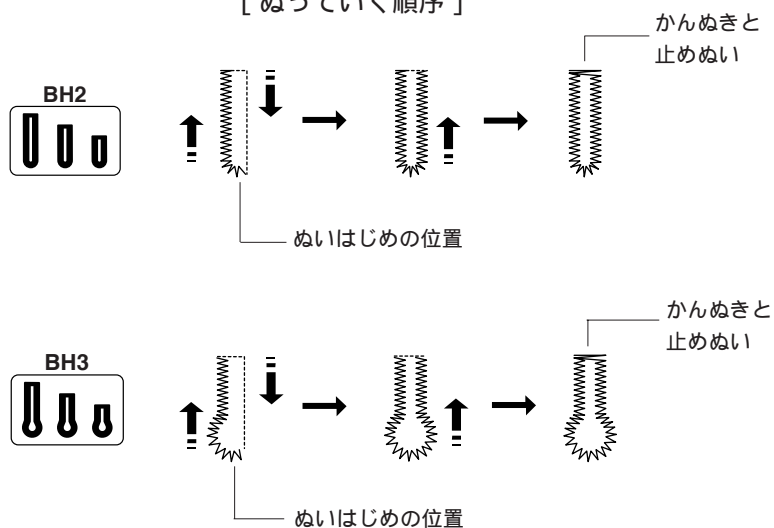
※ボタン受け台のすきまをあけて、位置決めするとその分大きいボタンホールができます。

③ＢＨ切替えレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

④押さえをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、ぬいはじめの位置に針をさして、押さえをさげます。

※ぬい始めに、押えスライダーとバネ保持の間にすきまがないことを確認してください。

⑤ミシンをスタートしてぬいます。

⑥かんぬきの内側にまち針をわたして、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

⑦ぬいおわったら BH 切替えレバーを止まるまでいっぱいに押しあげて戻します。

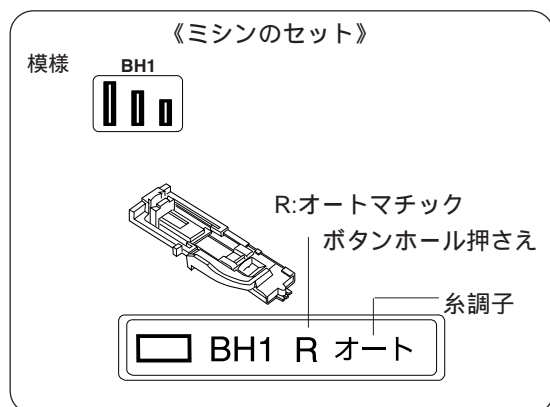
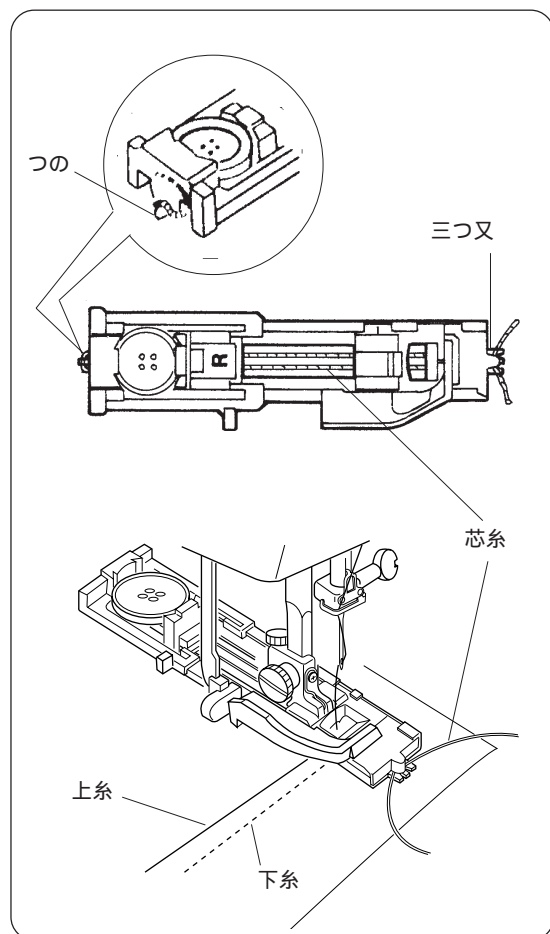
★ぬい目あらさを変えるとき

（細かいぬい目）（あらいぬい目）

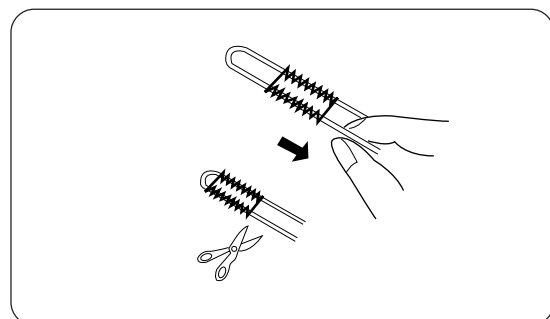
□ぬい目あらさキーを押すと自動セットされている数値 0.4 が表示されます。

□ぬい目のあらさを変えるには、「＋」または「ー」キーを押して 0.2 ～ 0.8 の範囲で変えてください。

※素材やぬい糸に合わせてぬい目のあらさを調節してぬいます。
（細かいぬい目・・薄い布、
あらいぬい目・・厚い布を目安にしてください。）

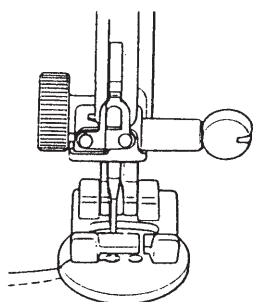
★ボタンホール（BH2,BH3）のぬい

□ぬい方は BH1 と同じです。（23-24 ページをごらんください。）
□ぬい目のあらさを変えるときは、25 ページをごらんください。

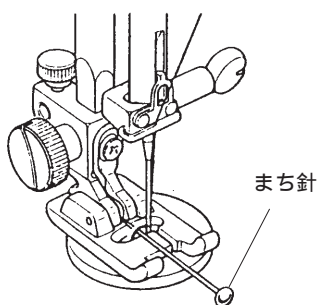
●芯入りオートボタンホール

□芯糸に合わせて、3 種類の模様から巾の合ったものを選んでください。

①芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつのに掛け、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

②オートボタンホール手順と同じようにぬいます。

③左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

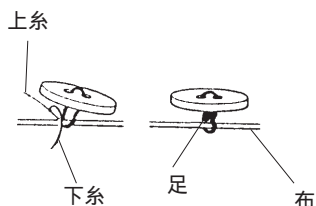
※穴のあけ方は、25 ページをごらんください。

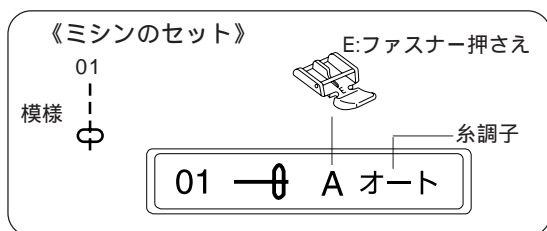
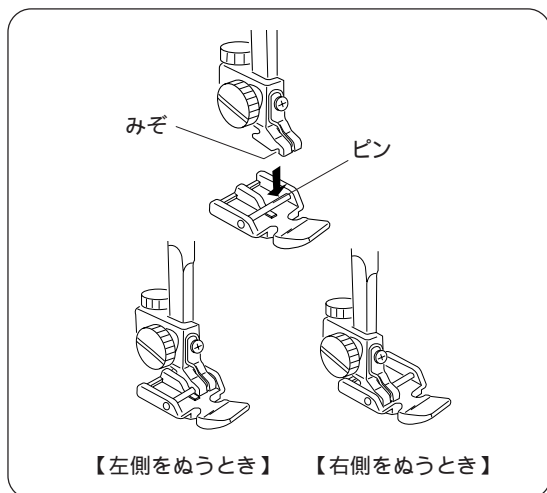
●ボタンつけ

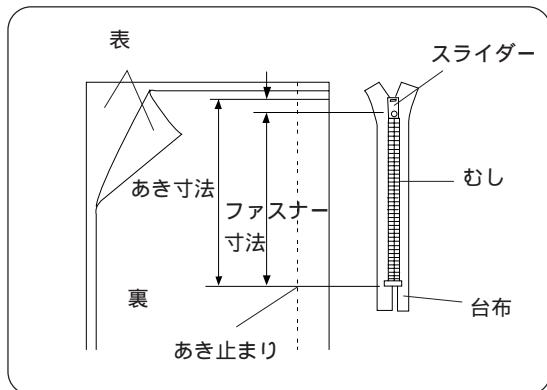
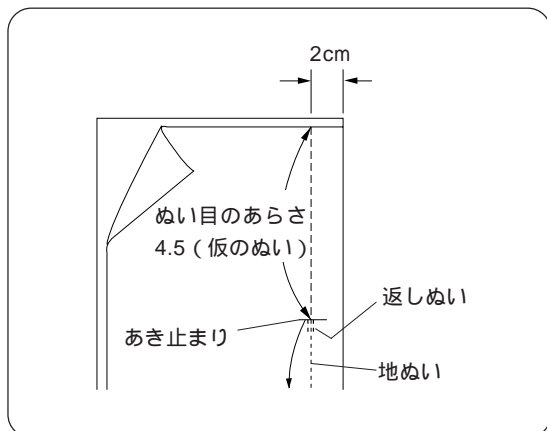
※ぬい目の巾は、ボタン穴の巾に合わせて、調節してください。

①はずみ車を手前にまわして､針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

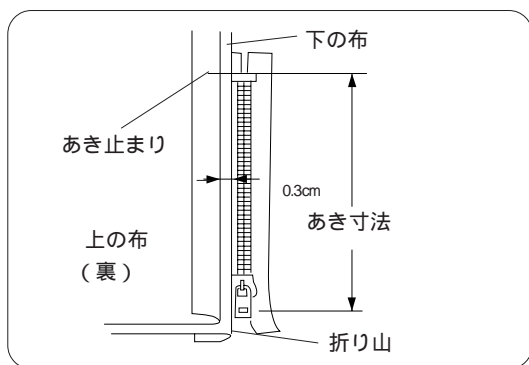
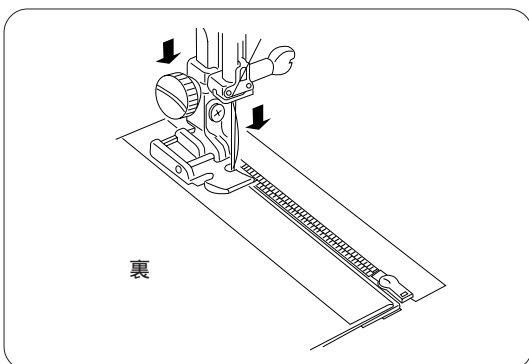
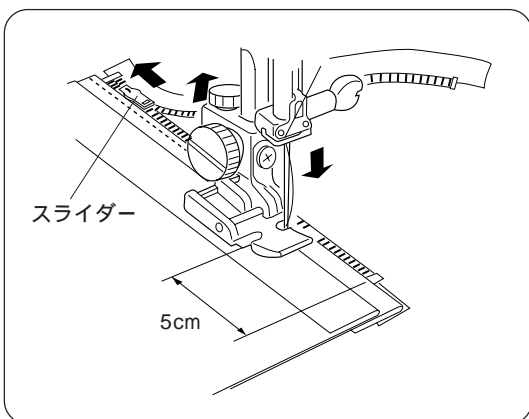
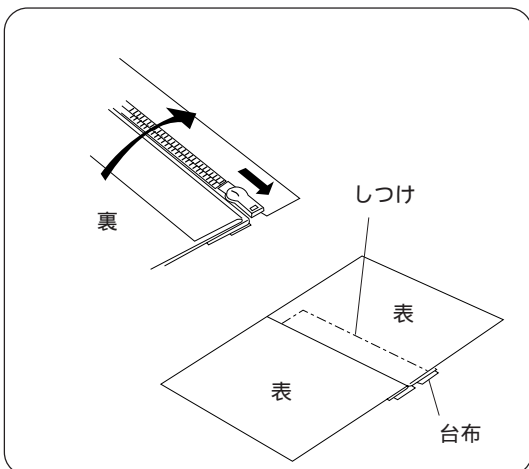
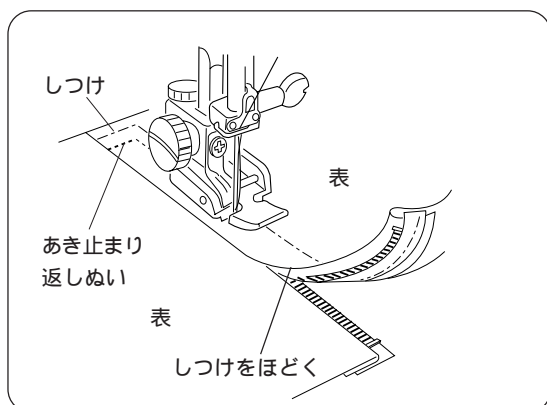
②ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。

③押さえの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。

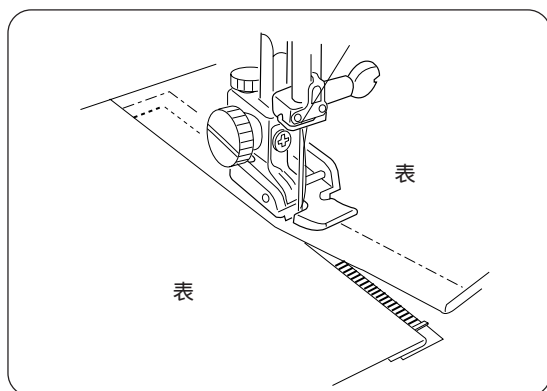
④ 10 針くらいぬったら、上糸・下糸を 20cm くらい残して切ります。

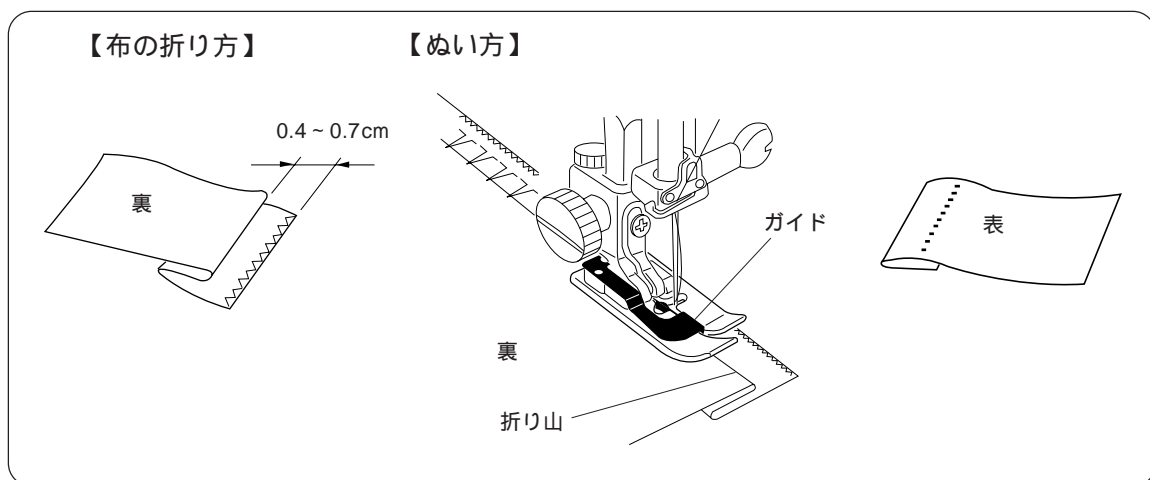
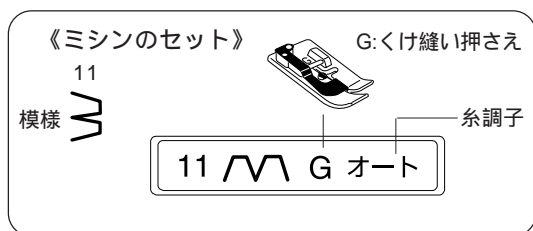
※ぬいはじめの上糸と下糸は､はさみで切り取ってください。

⑤上糸をボタンと布の間に引き出してから､上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し､上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

●ファスナーつけ

〈ファスナー押さえのつけ方〉

◎左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
◎右側をぬうときは、左側にセットします。

〈準備〉例：左脇あきのぬい方

【ファスナーのあき寸法をたしかめます】
①あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

【仮のぬいのしつけと地ぬいをします】
②布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
③あき部分は、ぬい目のあらさ0.45cmでぬいます。

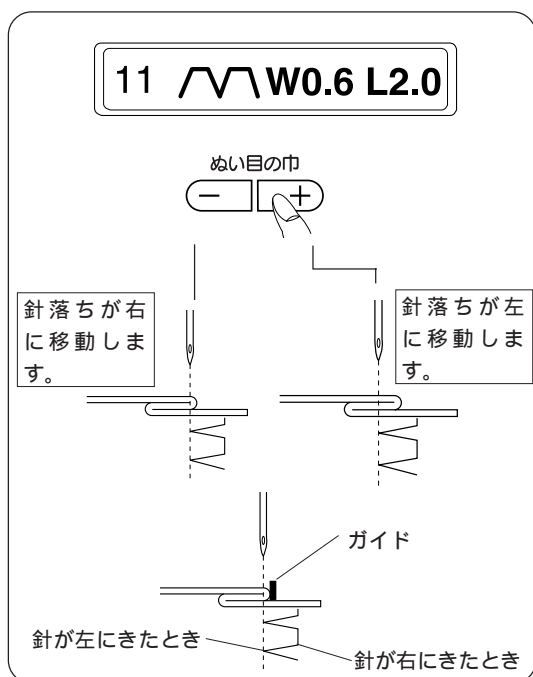
〈ぬい〉

①ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

②押えを右側にセットして、むしのきわに押さえの端を当てて、ぬいます。

③ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。

④スライダーをとじ、つまみの金具を上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

⑤押さえホルダーをファスナー押えの左側につけかえ、上の布のあき止まりを返しぬいし、むしのきわに押さえの端を当ててぬいます。

⑥ファスナーの上側を5cmくらい残したところでとめ、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえをあげて、しつけ糸をほどきます。

⑦スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。

●くけぬい（まつりぬい）

①ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないようにぬい目の巾キーで針落ち位置を調節してぬいます。

②ぬい終わったら布をひろげます。

※左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表にでるぬい目が大きくなりきれいに仕上がりませんので注意してください。

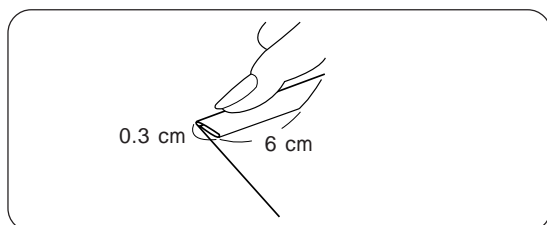
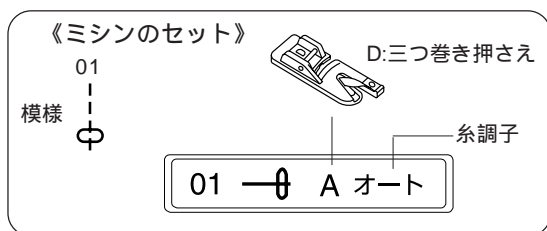
【針落ち位置をかえたいとき】

○ぬい目の巾 −＋ キーを押すと､自動セットされている数値0.6が表示されます。

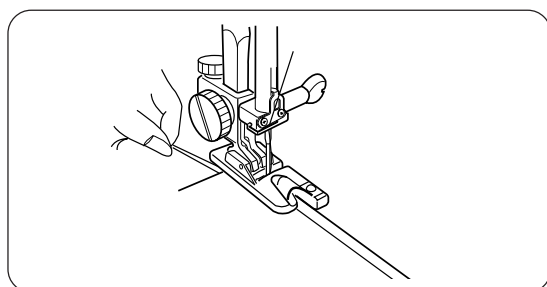
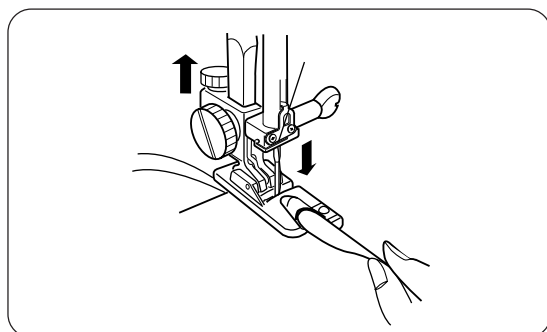
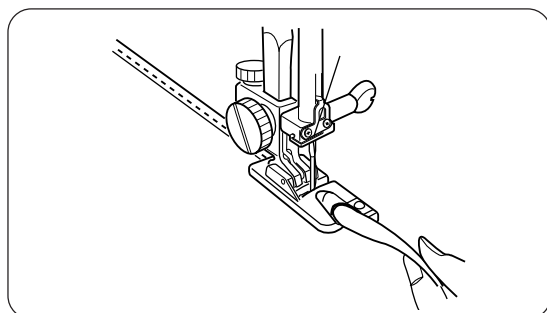
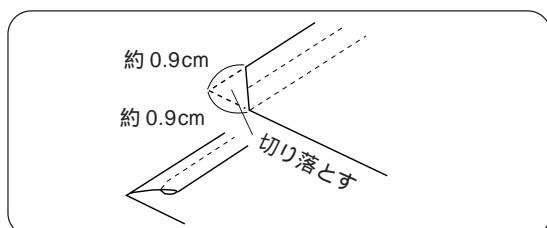
※表示0.6はガイドから針落ちが左にきたときの巾を示します。

※模様＃ 11は、ぬい目の巾は変化せずガイドからの針落ちが変わります。

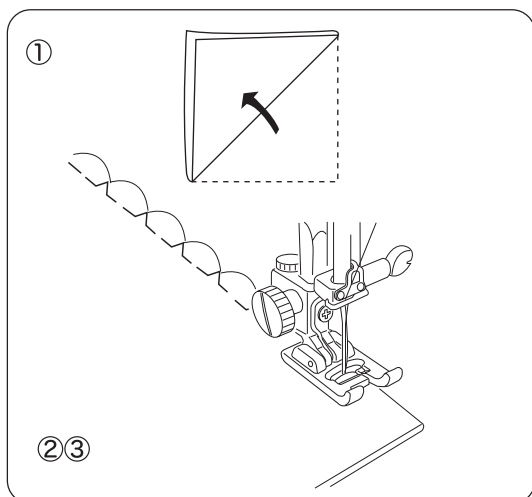
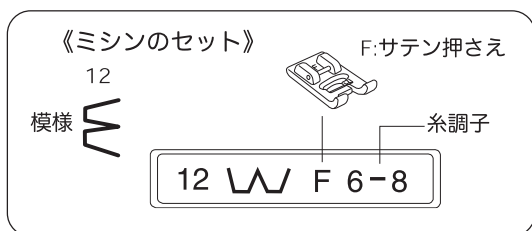
○針が折り山にかからない場合「＋」キーを押して針落ちを左に移動させます。

○針が折り山にかかりすぎる場合「ー」キーを押して針落ちを右に移動させます。

●三つ巻きぬい

①布端の長さ約6cmを、約0.3cmの巾で２度折曲げます。

※折り目のつきにくい布は、アイロンで折り目をつけておくと、ぬいやすくなります。

②ぬいはじめの部分に針をさし、押さえ上げをさげます。
上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押さえのガイドを合わせて1〜2cmぬいます。

③上下停針キーを押して針をさし、押さえ上げをあげて折曲げた布の部分を押さえのうずの中に巻きこみます。

④押さえ上げをさげ、布端を立てて、左寄りに引きぎみに持ちあげながらぬいます。

★布端のしまつ

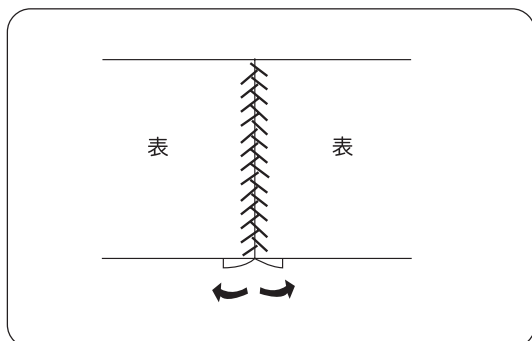
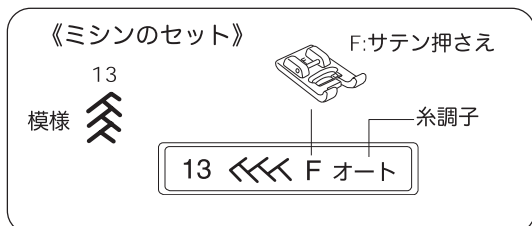
三つ巻きぬいの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくします。

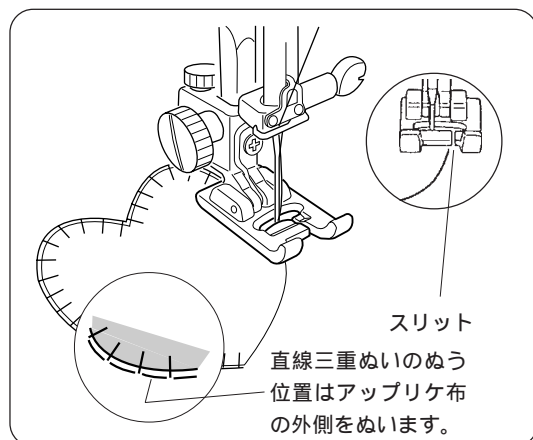
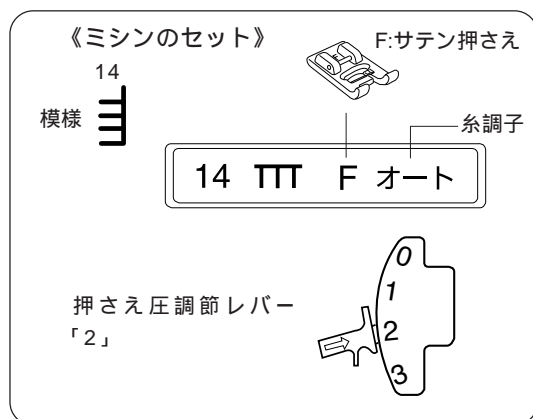
●シェルタック

①うす手の布をバイアスに2つ折りにします。

②針が右にきたとき、布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。

③布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。

※糸調子は、試しぬいをして、シェルタックの山がきれいに出るように調整します。

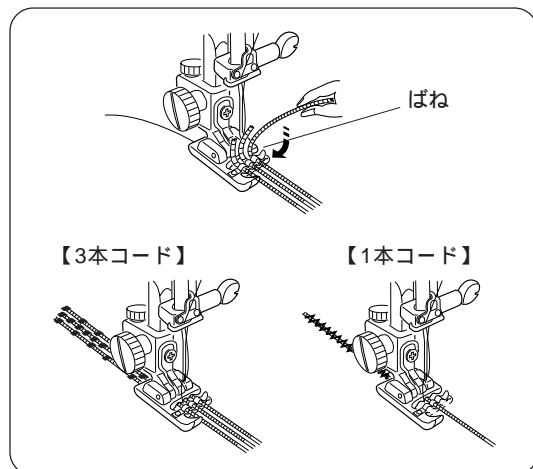
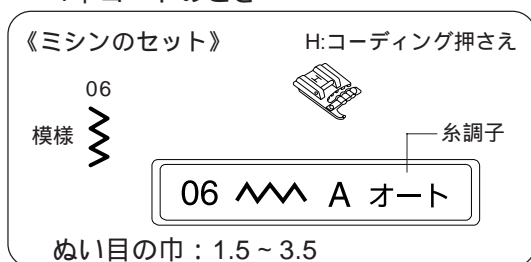
●パッチワーク

布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。
布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●アップリケ

アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。アップリケする布の輪郭をF押さえのスリットに合わせてぬいます。

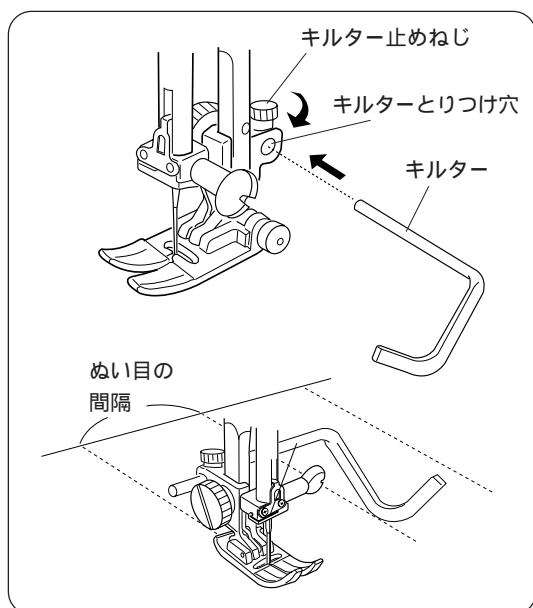
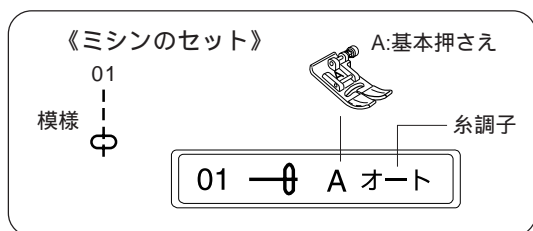
※急角度のところで向きをかえるときは､針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると､きれいに仕上がります。
※ぬいおわったら、押さえ圧調節レバーを「3」に戻します。

●コーディング

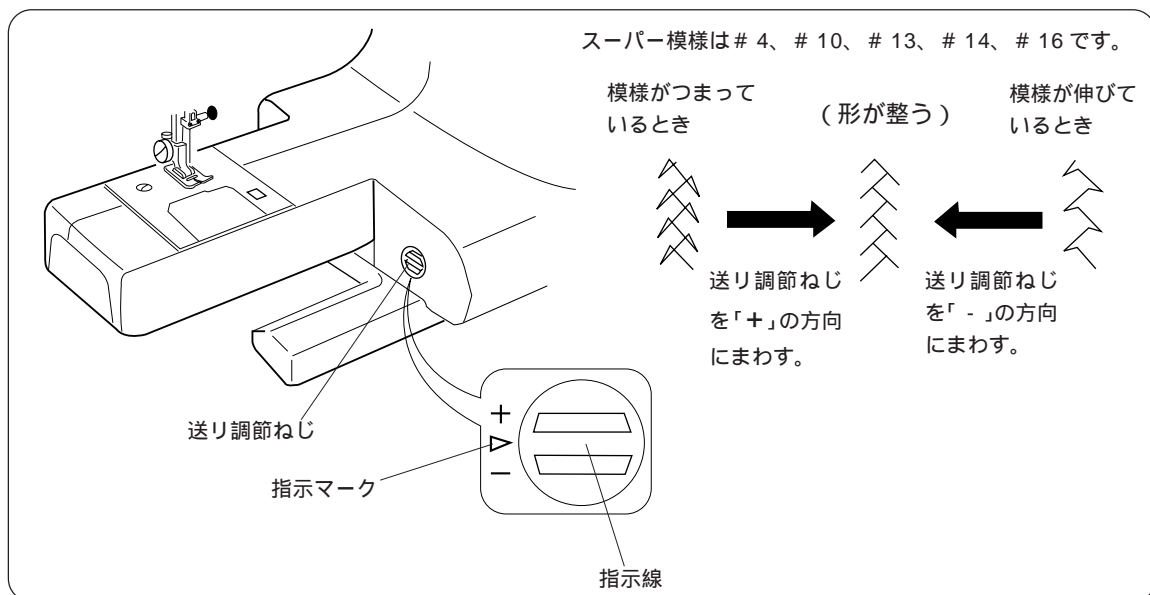
■3本コードのとき

■1本コードのとき

①コードを、押さえのばねの下にくぐらせ、みぞに通します。
②コードを押さえのスリットから押さえの下をくぐらせ、押さえのみぞに入れます。
③コードを平行にそろえて､ぬい目がコードにまたがるようにぬいます。
○1本コードのときは、押さえの中央のみぞを使います。

※コードは、極細毛糸やフランス刺しゅう糸、レース糸などを利用します。

●キルティング

キルター止めねじをゆるめて、キルターをとりつけ穴に入れ、ぬい目の間隔に合わせて、止めねじを締めます。

※キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●スーパー模様の形の整え方

布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送リ調節ねじで調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

●プログラムぬい（模様の組み合わせ「記憶」ぬい）

★連続模様ぬいの例　（模様＃17・＃18）

"記憶させた模様を、繰り返しぬいます。"

①模様＃17を選びます。

②模様＃17を記憶します。

③模様＃18を選びます。

④模様＃18を記憶します。
※点滅しますが、そのままスタートしてください。

★止めぬい「模様＃15」を使った模様ぬいの例　（模様＃17・＃18）

"記憶させた数の模様をぬって自動的に止まります。"

①模様＃17を選びます。

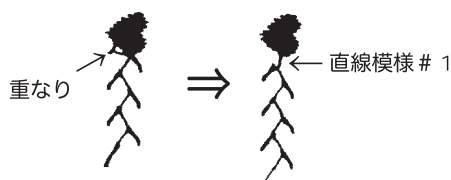
②模様＃17を記憶します。

③模様＃18を選びます。

④模様＃18を記憶します。

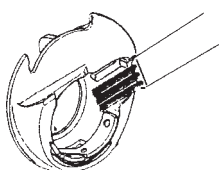
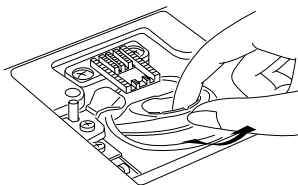
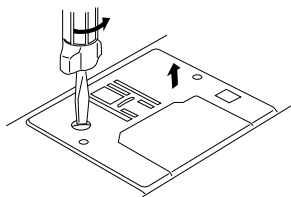
⑤模様＃15を選びます。

⑥模様＃15を記憶します。

［模様が重なるときの直し方］

重なる模様の間に模様＃1を記憶させます。
※模様＃13は3つ記憶してあります。

【画面表示について】

5個以上記憶すると、先頭に矢印が表示されます。模様＃18の前にも模様が記憶されていることを示します。

●ミシンの手入れ

※手入れのときには、上下停針キーを押して針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
※手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。
※このミシンは、注油の必要がありません。

◎使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

★かまの分解

①針と押さえをはずします。
②針板しめねじをはずし、針板をはずします。
③ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながらはずします。
④内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

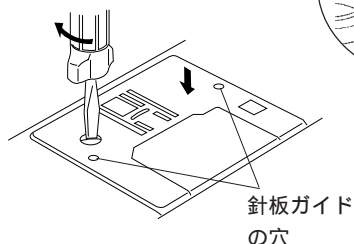
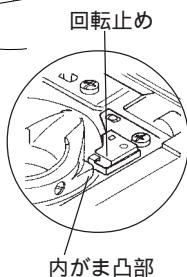
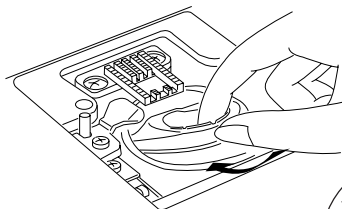
★かまと送り歯の掃除

⑤送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
⑥外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

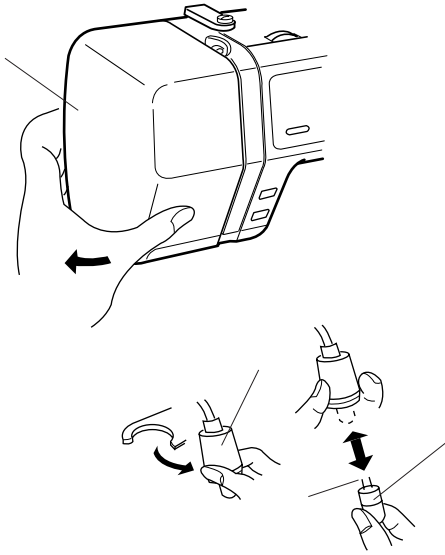
※ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。

★かまの組立て

⑦内がまをさしこみます。
⑧内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
⑨ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、しめねじをしめます。

※手入れがおわったら、忘れずに針と押さえをつけてください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ　の　原　因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4．針のつけ方がまちがっている。 5．ぬいはじめに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 7．針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	10ページ参照 16ページ参照 19ページ参照 19ページ参照 13ページ参照 13ページ参照 19ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	8、9ページ参照 38ページ参照 ボビンを交換する
針がおれる。	1．針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 4．布にくらべて針が細すぎる。	19ページ参照 19ページ参照 13ページ参照 19ページ参照
ぬい目がとぶ。	1．針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2．布に対して、針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸の掛け方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	19ページ参照 19ページ参照 19ページ参照 10ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布にくらべて針が太すぎる 4．布にくらべてぬい目があらすぎる。 5．押さえ圧が合っていない。 ＊特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあててぬってください。	16ページ参照 8,9,10ページ参照 19ページ参照 ぬい目を細かくする。 17ページ参照
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。 3．送り歯があがっていない。	38ページ参照 ぬい目をあらくする 17ページ参照
ぬい目に溝ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	16ページ参照 19ページ参照
ミシンがまわらない。	1．コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4．コントローラを接続したままでスタート・ストップキーを押している。	5ページ参照 38ページ参照 8ページ参照 5ページ参照
オートボタンホールがうまくいかない。	1．布に対して、ぬい目のあらさが合っていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	25ページ参照 23ページ参照
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。 3．電源投入時、ステッピングモータからわずかな共鳴音がでる。	38ページ参照 38ページ参照 異常ではありません。
ぬいずれがおこる。	1．押さえ圧が、合っていない。	17ページ参照

●ランプの取りかえ方

※ランプをとりかえるときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
※ランプは冷えてから外してください。

《はずし方》
面板を開き、ランプソケットを外して、ランプをそっと引き抜きます。
①面板
②ランプソケット
③ランプ

《つけ方》
ランプのピンをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。
ランプソケットを取付け、面板を閉めます。
④ピン

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
●無料修理保証期間内（お買い上げ日より１年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
１）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
２）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
３）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
４）お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
５）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

住　所　〒193-0941　東京都八王子市狭間町 1463 番地
電　話　お客様相談室　0120 － 026 － 557（フリーダイヤル）
042 － 661 － 2600
受　付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

仕様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	55W/ ランプ 3W
外形寸法	幅 41.3cmX 奥行 18cmX 高さ 28cm
質　量	8.6kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
縫速度	毎分 700 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。